

Obituary of the Late Dr. Toyohiko KAWATANI

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Satomi, Nobuo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00055947

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



Table 1. Number of ovules per ovary in *Arisaema minus*.

Locality	Sample number	Number of ovules per ovary	Number of ovaries measured
Western Kobe	1	9.60	53
	2	12.00	17
	3	12.15	20
	4	10.50	18
	5	12.06	18
	6	9.89	19
	7	13.80	20
	8	9.00	20
	9	10.19	21
	10	10.26	19
	11	19.17(max.)	18
	12	8.15	20
	13	7.95(min.)	20
	14	12.00	20
	15	10.05	20
	mean	11.12	
	standard deviation	2.75	
Mt. Funakoshi	1	12.86	21
	2	15.16	19
	3	11.2*	20
	mean	13.07	
	standard deviation	1.99	

* measured by J. MURATA (1986)

て、ムロウマムシグサでは 5.76 個である。これらの値と今回得られたハリマムシグサの 11.12—13.07 という値を比較したとき、胚珠数からみてハリマムシグサがヒガンマムシグサに近縁であろうという邑田の指摘はより多くのデータによってさらに裏付けられた。

本調査に際して、愛知教育大学の芹沢俊介先生、東京大学理学部の邑田仁先生から貴重な御教示をいただきました。記して感謝の意を表します。

以上のことから、「西神戸の植物」(1988)に記載したヒガンマムシグサはハリマムシグサに訂正する。

Arisaema minus (SERIZAWA) J. MURATA, Acta Phytotax. Geobot. 37: 37 (1986).

A. kishidae MAKINO var. *minus* SERIZAWA, J. Jap. Bot. 55: 153 (1980).

Specimens examined

Japan. Hyogo Pref.: Mt. Funakoshi, Nankocho, Sayogun, S. SERIZAWA 4 May 1978 (27836, 27837, 27838, 27839, 27849 AICHI*), J. MURATA 3 May 1980 (9758, 9759) & 4 May 1981 (10962a, 10962b), T. KOBAYASHI 29 Apr. 1989 (12813 SHO**); Mt. Tansho, Yamada-cho, Kita-ku, Kobe, T. KOBAYASHI 29 Apr. 1985 (2256 SHO**); Oshibedani-cho, Nishi-ku, Kobe, T. KOBAYASHI 19 Apr. 1988 (10211 SHO** & KYO), 1 Jul. 1988 (10984 SHO**) & 1 May 1989 (12833 SHO**); Yamada-cho, Kita-ku, Kobe, T. KOBAYASHI 19 Jun. 1989 (13410 SHO**).

* Aichi University of Education

** Shoei Junior College

引用文献

小林禧樹, 1988. ムロウマムシグサの兵庫県(分布西限地)における分布. レポート日本の植物 No. 36: 156.

——, 1989. ヒガンマムシグサ. 西神戸の植物, 29-30. 自費出版, 明石市.

邑田 仁, 1986. 日本産テンナンショウ属の分類形質と分類—(2)花梗の長さとは胚珠数—特にヒガンマムシグサとムロウマムシグサに関して. 植物分類地理 37: 27-41.

OHASHI, H. and MURATA, J. 1986. Taxonomy of the Japanese *Arisaema* (Araceae). Journ. Fac. Sci. Univ. Tokyo, III, 12: 281-336.

芹沢俊介, 1980. 日本産テンナンショウ属の再検討(1), ナガバムシグサ群. 植物研究雑誌 55: 148-156.

(Received July 15, 1989)

○ 川谷豊彦氏を悼む(里見信生) Nobuo SATOMI: Obituary of the Late Dr. Toyohiko KAWATANI
 本会々員川谷豊彦氏は平成元年6月, お亡くなりになられました。享年74歳でした。

故人は昭和15年3月, 東京帝国大学農学部農学科を御卒業になられ; 昭和16年, 同大学助手; 昭和17年, 厚生省東京衛生試験場技師; 昭和22年, 厚生省東京衛生試験場春日部圃場長; 以来, この機関は厚生省東京衛生試験場春日部分場, 国立衛生試験場春日部薬用植物栽培試験場と改名されたが, 終始場長として昭和46年, 定年退官されるまでの24年間, 薬用植物の栽培研究に従事されました。この間“*Claviceps litoralis* KAWATANIによる麦角の寄生的栽培に関する研究”で農学博士を授与され, 東京大学薬学部講師, 東京農業大学講師に併任されました。また, 退官後は東京農業大学教授に就任され, 多数の勝れた論文を残されたことは, 申すまでもございません。中でも“β-サイトカイニン含有植物の発見および薬用植物栽培の研究”は高く評価されるもので, 昭和30年に日本薬学会学術賞を受けられました。

私は昭和43年以來, 20年余, 御交際いただきましたが, 遂に御拝眉を得る機会を失ってしまいましたけれども, 薬用植物について御教示をいただいたり, また, お尋ねに対し, 浅薄ながら意見を申し上げるなど, その度に懇切な御便りを拝受し, 恐縮致しました。真に温厚な方と痛感致して居ります。

もっと御元気で長生きしていただきたい方であったと思うにつけ, 痛惜の涙がとまりません。謹しんで御冥福を御祈り申し上げます。